

令和3年度農林水産省 農山漁村振興交付金事業

農福連携 高収益品目への取り組み 事例集

Case Studies



目次

- はじめに
- 農業における職域×障害特性マトリクス
～どんな仕事に向いているか？～
- 事例
 - 社会福祉法人ゆうゆう
露地栽培野菜、米
 - 森林ノ牧場 株式会社
酪農（乳製品）
 - 有限会社 産直グループこだわり村
ゴマ
 - 特定非営利活動法人 一粒舎
ブルーベリー
 - 株式会社アクア 菰野辻農場
水耕栽培（低カリウム野菜）
 - 有限会社 フジタ
しいたけ
 - エーゼロ株式会社
養蜂（ハチミツ）
 - 株式会社 ONE GO
いちご
- おわりに

はじめに

2021年の基幹的農業従事者は約130万人、2000年に比べ約半数（下図参照）となっています。農業分野において、担い手の人材不足は深刻な課題であり、その解決策の一つに農福連携の取組があります。

農福連携とは、障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。中でも、高収益品目に取り組んでいくことは、経営改善の方向性のひとつとなります。

本資料では、高収益品目への取り組みに着目し、障害者雇用・障害福祉事業所と連携して生産を行っている優良事例についてご紹介します。



農業における職域×障害特性マトリクス ～どんな仕事に向いているか？～

これは農業の露地栽培の職域と障害特性のマトリクス表です。耕運機や刈り払い機など機械を利用することもあり、その取扱には危険を伴います。

しかしながら、『除草』や『水やり』などについては、多くの障害種別で取り組みやすい分野となっています。

障害特性に合わせて、作業を切り出していくことが農福連携を推進するポイントです。

農業	業種	職種	特性								
			知的系		精神系		精神・発達共通		発達系		
			長時間 耐久	ルーティン	ノルマ がない	基準が 曖昧	一人で 完結	PC系	基準明確	丁寧	計数
露地栽培	耕耘	耕耘機			○	○	○		○	○	
		鋤			○	○	○		○	○	○
	除草	刈り払い機			○	○	○		○	○	○
		鎌	○	○	○	○	○		○	○	○
		手	○	○	○	○	○		○	○	○
	作付け	種	○	○	○	○	○		○	○	○
		苗	○	○	○	○	○		○	○	○
	肥料	肥料	○	○	○	○	○		○	○	○
		追肥					○		○	○	○
	水やり	水やり	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	誘引						○	○	○	○	
	摘芯						○	○	○	○	
	収穫	根菜類			○	○			○	○	○
		葉物	○	○	○	○			○	○	○
		上記以外			○				○	○	○
	調整	根菜類			○	○			○	○	○
		葉物	○	○	○	○			○	○	○
		上記以外			○				○	○	○
	出荷	根菜類			○	○			○	○	○
		葉物	○	○	○	○			○	○	○
上記以外				○				○	○	○	
検品・梱包					○	○	○	○	○		

事 例

露地栽培野菜、米

～「できる人が、できることをする」ユニバーサル就労の概念で地域の基幹産業を支える一助に～

社会福祉法人 ゆうゆう

《代表者》 大原 裕介

《設立》 2013年4月1日

《事業内容》 露地栽培野菜（とうもろこし・かぼちゃ他）、米

《所在地》（野布瀬農園）北海道石狩郡当別町六軒町（ペコペこのはたけ）北海道石狩郡太美町

《従業員数》 302名（2021年9月1日現在）



ここが ポイント！

導入 事業承継
作業内容 露地栽培
成果 多彩な事業展開に活用

概要

耕作面積（規模）

野布瀬農園：農地 約8ha

ペコペこのはたけ（レストラン）建物横の自主農園：約2a

売上額

6,500,000円

主な販路

地元農協への出荷

ECサイトでの販売

法人直営レストラン（ペコペこのはたけ、u-gohan 東大正門）での提供（内部取引）

従業員数

支援員兼農業担当職員3名

就労継続支援B型及び生活介護事業所の利用者10名前後が従事

視察・報道機関の受け入れ

可（<http://yu-yu.or.jp/>）

高収益品目の取り組みにつながったポイント（ストーリー）

想いを受け取る形での事業スタート

令和元年4月、高齢により農業を継続できなくなった跡継ぎのいない地元農家夫婦の農地約8haを買い取り、農福連携事業を開始。農園の名称は、代々この場所で大事に農業を営んできたという想いを残

すため、ご夫婦の名字をそのまま使わせていただき「SocialCareFarm 野布瀬農園」と名付けられた。

町の推奨作物の生産と地産地消

かぼちゃは当別町の推奨作物だが、種まき～収穫までほとんどの作業が機械では管理できず、農業者の高齢化に伴い作付農家が年々減少している現状があった。当法人では障害者の力を借りることで積極的に作付に組み込み、年間6t以上を生産することができている。

かぼちゃのほか、8haの広大な面積を生かし米、馬鈴薯等を生産している。農作物の流通先は、地元の農協へ出荷するほか、同法人運営のレストラン（東京、当別）やグループホームの給食用食材として、また、レストランから注文販売でデリバリー弁当を町役場等に配達しており、新鮮で栄養価の高い野菜が好評となっている。

取り組みの成果

多様かつ細分化した作業内容で、誰でも関われる農作業に

通常の農家では一連の作業で行っている作業の工程を細分化し、個々の障害特性や得意とすることに合わせた仕事を提供できるように工夫している。作業工程の整理や支援の工夫は、結果的に元々の作業の効率化を生み、2020年度から2021年度にかけて事務所全体の生産効率と生産量が上がる（米14.5t→16.5t、馬鈴薯3.3t→3.7t）という効果があった。

福祉×農園レストラン×地域

同法人が就労支援B型事業所として運営する「地域共生型コミュニティー農園 ペコペこのはたけ」（写真：左ページ）は、自主農園で採れた新鮮野菜を中心としたメニューが人気のレストラン。敷地内の農園では、事業所のスタッフと利用者に加え、地域に住む団塊の世代の高齢者がサポーターとして農業指導をしに来たり、隣接の保育園の子どもたちの農業体験をしに来るなど、この場所があることでさまざまな住民交流が展開されている。

工賃 / 給与

2020年度の平均工賃：14,000円（法人内事業所での農業従事時間から算出）
（北海道の平均工賃：19,202円）

■ 年間の作業イメージ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
障害者作業	露地（とうもろこし・かぼちゃ・米・馬鈴薯）、椎茸栽培											
	露地：育苗、定植、苗植え、追肥						収穫、出荷補助					
	雑草除去、清流確保											
	椎茸：植菌、原木管理、散水						収穫、出荷補助					
スタッフ業務	法人運営レストラン、グループホームへの食材提供											
	収穫・出荷作業、ECサイト運営											

収支モデル (例)

収支（野布瀬農園）

就労支援事業収入	6,500,000	内部取引含む売上
就労支援事業支出		
材料費支出	1,700,000	資材等
労務費支出	1,600,000	利用者工賃
経費支出		
水光熱費	1,800,000	
消耗品費	710,000	
賃借料	60,000	
他経費	260,000	
就労支援事業製造原価支出計	6,130,000	
当期活動増減差額	370,000	

障害者雇用の現状と 活躍のポイント

◆ 属性情報

- ・ 就業障害者数 15 名
- ・ 障害種別 知的障害、精神障害、身体障害
- ・ 雇用形態 生活介護（野布瀬農園）
就労継続支援 B 型（ペコペこのはたけ）



▶栽培野菜と米

◆ 就業障害者が実施している作業

- ・ 育苗作業：とうもろこし、かぼちゃ、馬鈴薯、米の定植、苗植え、追肥
- ・ 収穫作業：色選別・脱穀（機械使用）、稲刈り・稲わら集め
- ・ 出荷作業：サイズ選別、磨き（かぼちゃ）、箱詰め、パッキング、出荷用シール貼り、段ボール作成、出荷時の荷積み下ろし
- ・ 環境管理：畑や育苗ハウスの雑草除去（手作業）、用水路の清流確保
- ・ 農園レストラン：植苗準備、育苗、収穫、選別、店舗スタッフとして調理補助、ホール接客
- ・ しいたけ栽培：原木管理、散水作業

◆ 良い点 / 難しい点

- ・ 時間がかかるが欠かすことのできない地道な作業や、手作業でのこまめな管理が必要な作物でも、楽しみながら実施してくれる。
- ・ 毎日安定して就業できるようになるための慣らしや生活習慣づくり等の期間が一定程度必要になる。
- ・ 地域のボランティアや北海道医療大学の学生が少しだけサポートしながら、引きこもり、若年性認知症、放課後デイの子どもたちなどにも作業や交流の機会を提供し、農作業を通じた豊かな出会いの場となっている。

◆ 必要なサポート

- ・ 障害特性に応じた工程の細分化や業務導入時の説明
- ・ 視覚的にわかりやすい作業指示
- ・ 1人1人の障害特性に合わせた仕事のペース配分と合理的配慮が必要

生産品の 特徴

福祉の新しい「あたりまえ」をつくる

これらの農園で採れた米や野菜は、東京大学内で同法人が運営する「北海道の米と汁 U-gohan 東大正門」へ送られ、東京大学の学生や大学を訪れる多くの人々に北海道の農産物のおいしさを発信している。福祉施設が運営する飲食店ということ一切前面に出さず、本当においしい素材をそのままおいしく提供する。苦労話を売り物にせず、福祉の新しい「あたりまえ」をつくるため、東京という地でのチャレンジが続いている。



▲ 季節の小鉢御膳

北海道ブランドを活かした EC サイトによる全国展開

U-gohan 東大正門のブランディング戦略として立ち上げた EC サイトは、北海道ブランドの米や野菜を求める全国の消費者に人気。特に夏季限定の朝もぎ・産直とうもろこしは、約 3,800 本が1か月以内に売り切れるほど好評の商品となっている。

多品種少量生産 + 専門スタッフの雇用でこだわる品質

ペコペコのはたけの看板メニューは月替わり6種類の「季節の小鉢御膳」。このメニューを彩る野菜は、多品種少量を専門スタッフが利用者と一緒に丹精込めて育て、東京の料理店を経験した専属シェフにより高い品質の御膳に生まれ変わっている。

今後の 展開

安定生産と販路拡大による工賃向上

今後も安定的な生産量を確保し、SNS 等を積極的に活用した EC サイトでの販路拡大を図っていく。加えて、収益性の高い販路を開拓し、就業障害者の工賃向上を達成していきたいと考えている。



▲ EC サイト

コロナ禍を乗り越える収入源の確保と拡大

レストラン事業について、コロナ禍における安定的な収入源としてデリバリー弁当事業により力を入れていく。当法人の運営する就労継続支援 A 型事業所に配送作業を請け負ってもらい、配送先の増や効果的な営業戦略を連携して展開していく。

ユニバーサル就労の概念で町の基幹産業をみんなで支える

障害者の仕事を福祉事業所内で完結するものにせず、地域のあたりまへの営みに合った活動を取り入れることで、地域の中で足りない部分を補える役割を持てる力があることを知ってもらいたいと考えている。「支え手」「受け手」の関係は、対象や内容が変われば簡単に入れ替わるものであり、お互いがお互いの支え手となる関係性を意識して活動していく。



▲ 作業の様子

Editor's Voice

同法人の農園では、障害者だけでなく、若年性認知症や引きこもりの方などさまざまな境遇・立場の人が、自分の「できる仕事を、できる分だけ」担っています。当別町では高齢化が進み、基幹産業である農業の従事者不足は深刻な地域課題となっています。これまで支えられる側だった彼らの活躍は、町の基幹産業を支える側としての役割を担っていくことが期待されています。地域の人たちだけでは人手が足りない仕事を、障害者が楽しそうに作業する。このような何気ない日常的一幕から、地域共生社会のヒントが垣間見えます。

酪農（乳製品）

～森林放牧による価値の循環、体験が生む付加価値～

森林ノ牧場 株式会社

《代表者》 山川 将弘

《設立》 2011年1月（前運営会社より事業承継を受け独立）

《事業内容》 酪農

《所在地》 栃木県那須郡那須町大字豊原乙 627-114

《従業員数》 20名（2021年10月1日現在）



ここが ポイント！

導入 理念に基づいた実践

作業内容 酪農

成果 高付加価値な商品の開発

概要

耕作面積（規模）

8ha（ジャージー牛21頭を放牧）

売上額

125,000,000円

主な販路

牧場での直売（BtoC）

オンラインストア（BtoC）

飲食店やホテルなどへの卸販売（BtoB）

※ BtoB、BtoC の割合は 50:50

従業員数

正社員 20名

特例子会社への業務委託ならびに派遣の受け入れで5名の障害者が従事

視察・報道機関の受け入れ

可（<https://www.shinrinno.jp/>）

高収益品目の取り組みにつながったポイント（ストーリー）

森林を起点としたコミュニティの創造

日本の国土の約7割を占める森林の有効活用と、放牧と田舎暮らしへの憧憬という代表の思いが、森林ノ牧場という実践につながっている。輸入木材の増加や管理者の減少によって森林の多くは活用され

ないままになっている。課題の多い森林に、同じく担い手の減少という課題を持つ酪農を取り入れることで再活性化を図っている。

酪農は価値のサイクル

森林に家畜が入ることで人が活用できない草を食み、ミルクを生産するという価値の循環が起こる。牧場に観光客が訪れることで直売の機会が生まれ、森林の再活性化と酪農の事業的成功に近づけていくことができている。

取り組みの成果

農福連携の必要性

設立当初より近隣の高齢者施設の利用者や特例子会社と連携を行っていたことから、共に活動することが自然であった。

障害者との関わり

酪農業界が抱える慢性的な現場作業員の不足という課題について、機械化や外国人労働者の受け入れを行っている企業も多いが、森林ノ牧場では潜在的な労働力である障害者にそれらの業務を担ってもらうことで解決を図っている。

障害者との協働モデルで売上が向上

障害者との協働を10年に渡り続けているが、当たり前前に「いる」ということがとても大切とのこと。多様な人材が携わる職場であることからコミュニケーションが必要となり、自然とコミュニケーション量が増えているようだ。そのことが職場全体の生産性を上げていると考えているようである。

6次産業化による収益増

放牧による牛の飼育だけではなく、乳製品への加工、体験牧場の運営と直売という6次産業化をすることで高い収益を得ることができている。

工賃 / 給与

外注人件費の合計は 450,000 / 月

1日あたり2~3名の障害者が従事している。

■ 年間の作業イメージ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
障害者作業	給餌、清掃											
	乳製品の製造補助、配達											
スタッフ作業	餌のコントロール、繁殖、搾乳											
	牧草地の管理、乳製品の製造											

収支モデル (例)

収支		2018年度	2019年度	2020年度	
売上高		111,000,000	123,000,000	125,000,000	
原価		非公開		50,000,000	原価率 40%
	原材料費			26,000,000	
	資材費			24,000,000	
粗利益				75,000,000	
経費					
	人件費			非公開	正社員 20名
	外注人件費			450,000	業務委託+派遣
	水道光熱費			3,500,000	
	消耗品費			3,500,000	
	他経費			20,000,000	

※外注人件費については登録者 5 名のうち、1 日あたり 2~3 名が出勤

障害者雇用の現状と 活躍のポイント

◆ 属性情報

- ・ 就業障害者数：5名
- ・ 障害種別：知的・身体
- ・ 雇用形態：業務委託および派遣
- ・ 勤務形態 / 賞与等の有無：業務委託契約、派遣契約

◆ 就業障害者が実施している作業

- ・ 生乳の作業：生乳を牛舎から製造室へ移動
- ・ 除糞や清掃：牛舎内の清掃業務
- ・ 哺乳や給餌：子牛への哺乳や日々の給餌を行う業務
- ・ 乳製品製造の補助：機械を用いて加工作業の補助を行う業務
- ・ 配達：近隣の店舗への配達業務

◆ 良い点 / 難しい点

- ・ 同じ作業を繰り返し行うことに適性がある。
- ・ 障害によって作業内容や手順を忘れてしまうことがあるが、結果として繰り返し説明を行うというコミュニケーションが増える。そのことが職場内のコミュニケーション量を増やし職員間の連携が自然と行われる職場風土の醸成につながっている。

◆ 必要なサポート

- ・ 生き物に携わる仕事なので細かな指示が伝わりにくいことがある。特例子会社の支援担当者が通訳のような役割を果たしてくれており、指示の意図や作業手順について説明をしてくれている。
- ・ 障害者同士で教え合ったり、サポートしあったりというコミュニケーションが行われていることも重要だと考えている。



▲ 牛乳

生産品の 特徴

希少なジャージー牛

ジャージー牛は日本では0.6%しか乳牛として飼育されていない希少な牛である。大半を占めるホルスタインと比べて乳成分が多く濃厚な味わいのミルクがとれる。森林ノ牧場では、自然のままの味わいを提供するため、ノンホモジナイズ（脂肪球の均一化を行わない）の牛乳として販売を行っている。



▲ ジャージー牛

体験を付加価値とした価格設定

森林ノ牛乳は500mlを650円（内税）で販売している。市販の牛乳より割高な価格設定だが、放牧されている牛とのふれあいという牧場での体験から多くのリピーターを生んでいる。季節ごとに牛が食べる草の成分によって味が変わることから年間を通して味の変化を楽しむことができるのも特徴のひとつである。

加工品としての展開

牛乳だけではなくバターやヨーグルト、ソフトクリーム、アイスキャンディー、肉製品などの加工品も製造している。なかでもソフトクリームは季節ごとの味を提供しており、特に人気の商品となっている。



▲ 乳製品の製造

今後の 展開

新規牧場の開設

売上が上がってきたことから新規牧場の開設を予定している。牧場の運営において重要だと考えていることは、生産場所としての位置づけを全面に打ち出していくことである。牛が放牧されている姿、牛から生産される各種製品を身近に感じていただけるようにしたいと考えている。

小規模酪農の成功モデルとして

また、スタッフがそれぞれの牛の名前を認識できるくらいの頭数を放牧する方がよいと考えている。そういった小規模な牧場をたくさん作り、酪農に携わる人が増えてくれれば嬉しい。

課題解決の方法としての酪農

小規模な牧場が増えることで、酪農が活用されなくなった森林や荒廃農地といった課題を解決する方法なることを期待している。



▲ 牧場見学者の様子

Editor's Voice

森林での放牧は通常の放牧に比べて生産性が落ちると言われています。それでも「牛のいる風景」、「田舎で暮らす」という目標と、森林や耕作放棄地の再活用という課題の双方にアプローチするためにさまざまな取り組みを実施されています。動物とのふれあいを通してセラピー効果も見られ、障害者が生き生きと働いている様子が印象的でした。

有限会社 産直グループこだわり村

《代表者》 森下 法光

《設立》 1993 年 10 月（グループの発足は1966年）

《事業内容》 グループ全体でゴマ等の生産、加工、販売など

《所在地》 埼玉県川越市中福 887

《従業員数》 101 名（パート含む）



ここが ポイント！

導入 需給の見極め
作業内容 農作業全般
成果 高品質な作物として販売

概要

耕作面積（規模）
14ha
（遊休農地活用のため 4 市 40 か所以上の合計）

売上額
約 18,000,000 円
（28,000 パック @640 円で計算）

主な販路
自社のアンテナショップでの販売
卸し販売

従業員数
障害者の直接雇用 3 名（パートタイム）

視察・報道機関の受け入れ
可（<https://kodawarimura.co.jp/>）

高収益品目の取り組みにつながったポイント（ストーリー）

グループ発足時からの理念

「近郊農業の生産者を守る」「本物の味を忘れてほしくない」「食べる人の健康を守る」、創業以来こだわり続けているこれらの理念をもとに、手間と時間を惜しまない生産・流通・販売を続けてきた。

国内の需給を見極めて

国産ゴマの自給率は0.1%、ほとんどが海外からの輸入に頼っている。また、数年前から続いているゴマの不作と気候変動によって、ゴマの価格は上昇し続けている。健康志向によってゴマやその加工品の需要は増しており、生産を始めることにした。

取り組みの成果

グループとしての展開

もともとは生産者として農業を行っていた創業者の思いを受け継ぎ、卸業、加工販売へと事業を展開、いわゆる6次産業化に早くから取り組んできた。後述する障害者雇用の取り組みを皮切りに障害福祉事業の運営も開始し、農業に関連する事業で雇用を生み出し続けている。障害者にはその適正に合わせて、生産、加工、販売などグループ内にある業務を切り出して従事してもらっている。機械化を進めていますが、まだまだ人手を要する作業も多く、より多くの方が農業に従事していくことが必要だと感じている。

支援学校との連携

障害者雇用を始めたきっかけは、近隣の支援学校からの依頼でした。農家での実習先を探していた支援学校からの相談で支援学校の生徒の実習受け入れを開始しました。人手不足だったこともあり、これをきっかけに障害者雇用を行い、さらなる受け皿としてグループ内に就労継続支援 B 型事業所を立ち上げた。その後も支援学校からの卒業生を受け入れるなど連携を続けている。

給与

時給960円（5～6時間 / 日、5日 / 週）

グループ内の障害福祉サービス事業所での工賃

公益社団法人ウォームサポートシオン 就労継続支援 B 型事業所シオン

R2 年度の平均工賃：24,260 円（時給 330 円～880円）

埼玉県の平均工賃：14,006 円

■ 年間の作業イメージ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
障害者作業 ゴマ栽培				種まき				収穫				
障害者作業 その他	農作業（野菜等）	農作業（野菜等）		農作業（野菜等）			農作業（野菜等）			加工・ピッキング等		

収支モデル (例)

収支		2020年度	
売上高		6,488,862	
原価 (原材料・資材費等)		979,543	原価率 15%
粗利益		5,509,319	
経費		3,480,707	
	人件費	2,525,000	
	外注人件費	365,000	
	水道光熱費	86,584	
	消耗品費	486,542	
	他経費	17,581	
営業利益		2,028,612	

障害者雇用の現状と 活躍のポイント

◆ 属性情報

- ・就業障害者数：3名
- ・障害種別：知的
- ・雇用形態：パートタイムとして直接雇用
- ・他に農作業をグループ内の就労継続支援 B 型事業所に業務委託

◆ 就業障害者が実施している作業

- ・農作業全般（除草作業～機械作業）
- ・グループ内で生産する品目はゴマ以外にも里芋、さつまいも、ほうれん草、小松菜、水菜、大根、人参、長ネギなど多数に渡り、年間通してほとんどの時期で農作業がある。
- ・収穫された野菜の一次加工（皮むき、カットイングなど）
- ・ピッキングなど発送補助業務

◆ 良い点 / 難しい点

- ・人手を要する作業を行う際に大きな戦力となる。
- ・農業に携わりたいという気持ちが強くモチベーションが高い。
- ・支援学校で農作業のトレーニングを行っており一定の作業能力を持っている。
- ・障害者それぞれで適性が異なるので向いている作業を発見することが難しい。

◆ 必要なサポート

- ・刃物を使う工程では怪我をしないような配慮が必要。
- ・農業に関心があってもトレーニングが必要な障害者に対しては、就労継続支援 B 型事業所でのトレーニングをしてもらうなど適切な従事環境の提供。
- ・職場内に面倒見のよい高齢のスタッフがおり、他のスタッフとの緩衝材となるなどナチュラルサポートの役割を果たしている。



▲ ゴマの花



▲ 作業の様子

生産品の 特徴

手間を惜しまない生産

ゴマは作物としては強く栽培は比較的容易である。しかし、出荷するまでには非常に手間のかかる工程が多く、販売価格と見合わないと言われてきた。収穫後に2週間ほどの乾燥期間が必要なこと、唐箕（とうみ）によって大きな異物を取り除く作業を最低でも3回、ふるいにかけること6回、その後目視で石などの異物を取り除く作業がある。全ての工程が機械化できるわけではないことから、障害者の手を借りながら時間をかけて手作業で行っている。

国産というブランド、無農薬という付加価値

近年の健康志向によって、消費者は国産や無農薬、有機栽培といった食材の安心に対して高い関心を持っている。消費者のニーズに応えられるよう、こだわりの農産物を提供している。国産と無農薬栽培という付加価値によって一般的な輸入品と比較して3倍近い価格で販売することができている。



▲ ふるいにかける様子

今後の 展開

さらなる機械化による生産効率の向上

遊休農地の活用として小規模な農地を複数所持している。農地面積によっては大型農機の導入することは難しいですが、作業の効率化のために機械化を進めていきたいと考えている。



▲ 商品化されたゴマ

加工品の開発

グループ企業においてゴマを使った製品を開発している。展示会で行われたコンテストでヴィーガン向け担々麺が大賞を受賞するなど、製品化に向けた取り組みを続けている。

さらなる事業と雇用の拡大

これまで顧客のニーズに合わせて卸業や販売、障害福祉サービス事業所の運営などグループとしての事業拡大をしてきた。次年度には自社農場でのレストランの経営を計画している。これからも障害者雇用を含めて、農業に関連した雇を増やしていきたいと考えている。



▲ 作業の様子

Editor's Voice

農業を志す障害者と、それぞれの特性に合わせた作業を切り出す事業者の姿勢が規模拡大と多様な事業展開につながっている事例です。全てが機械化できるわけではないことから、丁寧に作業に取り組む障害者は大きな戦力であり、そういった評価が障害者に自信をもたらしています。

ブルーベリー

～市との協働、地域貢献の視点で臨む障害者の自立支援～

特定非営利活動法人 一粒舎

《代表者》 飯田 喜代子

《設立》 2007年4月

《事業内容》 ブルーベリー栽培・加工・販売、ブルーベリーつみとり園の運営、里山の管理

《所在地》 千葉県木更津市真里谷 4832

《従業員数》 9名



ここが
ポイント!

導入 行政との連携
作業内容 ブルーベリーの栽培
成果 高工賃の達成

概要

耕作面積（規模）
1.2ha（3ha 里山を管理している）

売上額
約 15,340,000 円

主な販路
道の駅
イベントや市役所での販売
自法人で運営しているカフェ
ふるさと納税の返礼品として

従業員数
20名（知的16名、精神4名）

視察・報道機関の受け入れ
可（<http://norarikurari.sakura.ne.jp/index.html>）

高収益品目の取り組みにつながったポイント（ストーリー）

きっかけは一人の障害者

身寄りのない障害者を引取り支援をしていた飯田氏。仕事がなくなってしまった障害者のために就職先を探すもうまくいかず、障害者の行き場がないことを痛感した。そこで障害者が働ける場所として小規模作業所（現在の就労継続支援 B 型に該当）を設立することを決意した。

市との協働と特産品としてのブルーベリー

市との協働と特産品としてのブルーベリー

小規模作業所として取り組める仕事がないか市の担当者に相談したところ、特産品であるブルーベリーの栽培を勧められ、農地の確保を仲介してもらうなどさまざまな協力を得ることができた。

取り組みの成果

高工賃を目標に

開設当時（2007年）の県の平均工賃は 12,000 円程。グループホームで生活をしようと思うと、利用者の多くが受給していた障害年金とは別に、30,000 円が必要となる。そこで、工賃 30,000 円を目標に施設運営を行うことに。現在では平均工賃が 45,231 円（2020 年度）となり千葉県有数の高工賃事業所となっている。

観光農園としての活動

県内外から 3,000 人近くの観光客が訪れるブルーベリー摘み取り園も併設、無農薬栽培なのでその場で食べられる。パフェやスムージーなどの加工品も好評となっている。

地域貢献の視点

農閑期に始めた草刈り作業は、自力では草刈りの難しい高齢者の助けになるとともに利用者の工賃原資となっている。また、こういった地道な活動は地域からの信頼に繋がり、0.25ha の農地から始まったブルーベリー農園は、近隣の高齢農家からの提供をうけ年々拡大、現在の面積になっている。また、中間管理機構を通じて土地を借り受け、草刈りや植栽を行うなど里山としての再生を図り、カフェ事業を始めた。地域貢献と新規事業を共に行えるよう工夫している。

工賃

2020年度の平均工賃：43,078 円

（千葉県の平均工賃：13,477 円）

最低でも 20,000 円台、最も高い利用者で 80,000 円以上の工賃実績がある。

■ 年間の作業イメージ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ブルーベリー栽培 障害者作業		剪定		草刈り				実や葉の収穫				施肥
その他 障害者作業	内職作業、除草作業、加工品の製造補助、観光農園の受付など											

収支モデル (例)

収支

	2018年度	2019年度	2020年度
売上高	10,790,000	11,670,000	15,340,000
利用者数	20	20	20
平均工賃	39,406	42,179	43,077
県内の平均工賃	15,013	15,215	13,477

※ 売上高の上昇を背景に、平均工賃も向上を続けている。県内の平均工賃を大幅に上回る工賃支払い実績を達成している。

障害者雇用の現状と 活躍のポイント

◆ 属性情報

- ・利用者数：20名
- ・障害種別：知的、精神

◆ 就業障害者が実施している作業

- ・除草作業（ブルーベリー園の他、地域の住宅や行政施設の除草を行っている）
- ・施肥作業（肥料と竹チップ（一部は自社で製造）を施すと同時にマルチを張る）
- ・収穫作業
- ・剪定作業（収穫量を増やすために剪定を行う）
- ・加工品製造の補助作業（リーフティー、マフィン、クロワッサン、ジャム、スムージーなど）
- ・観光農園の受付、レジ

◆ 良い点 / 難しい点

- ・皆勤賞、精勤章（年間1日以内の欠席）の対象が利用者の半数を超えるなど高い出席率。
- ・機械を用いた作業は難しい部分もあるが、チャレンジする機会を保障している。

◆ 必要なサポート

- ・草払い機を扱うための講習を毎年実施。草払い機を扱える利用者には手当を支給するなどチャレンジ意欲を喚起している。
- ・作業能力が十分ではない人であってもできる作業を提供し、携わってもらえるよう工夫している。例えば、剪定作業は難しく特定の利用者しか行えないが、剪定後の枝を拾う作業は多くの利用者が携わることができている。
- ・通所のモチベーションを維持するための工夫として手作りの昼食（100円）を提供している。また、地域貢献活動を通して地域の方からの承認が得られることで、一粒舎に所属していることに誇りを持ってもらえているのではないかと考えている。



▲ 栽培しているブルーベリー



▲ 障害者の作業の様子

生産品の 特徴

生食用ブルーベリーの無農薬栽培

一粒舎のブルーベリーは農薬や化学肥料を用いずに栽培しており、生食も可能である。木更津市は国内有数のブルーベリーの産地。長年培われた栽培のノウハウと、行政や生産者で構成される協議会との協働によって大粒のブルーベリーを生産することができている。2021年には、市の後押しもあり有機JASの認定を受けた。

高齢者の知恵を引き出す組織風土

一粒舎を構成するスタッフは平均年齢68歳と高齢者が中心。全てのスタッフがこれまでの経験を活かした取り組みを行っている。栽培したブルーベリーから作られたジャムを用いたクロワッサンは、調理師をしていたスタッフの発案で販売を開始し、道の駅で非常に好評となっている。また工業専門学校の技師であったスタッフを中心に、開墾や治水の技術を用いて工事を行い、里山にカフェをオープンし販路を拡大することに成功。農福の連携に高齢者の知恵を加えることでブルーベリーの良さを十二分に引き出すことができている。

今後の 展開

スタッフとしての雇用

利用者を雇い入れることを計画している。利用者を雇い入れることで所得保障をすすめることができるとともに、さらに多様なスタッフで運営を行っていくことができると期待している。

カフェの通年営業と持続可能な里山管理

現在は予約営業となっているカフェを通年で営業できるようにしていきたいと考えている。カフェの売上によって草払い機の燃料や里山に植える花苗の費用を賄う持続可能な仕組みを確立することで、里山により多くの人々が訪れるようになると期待している。ブルーベリーの摘み取り園を中心に自然や景観を活かした観光事業の展開も計画している。



▲ コスモスとカフェの様子

新商品の開発

リーフティーやマフィン、クロワッサンなど、これまでたくさんの商品を開発している。これからも毎年新たな商品を開発し販売していきたい。

Editor's Voice

0からのスタートであったブルーベリー栽培で県内有数の高工賃を達成した背景には、行政や、地域住民、多様なスタッフなど、関わる全ての人の知恵を結集した実践にあったのではないかと考えます。連携というオーソドックスな取り組みの中に、これからの社会で求められる新しさを発見させられるような好事例といえます。

水耕栽培（低カリウム野菜）

～天然水が育てる安全なスペシャルニーズにこたえるための低カリウム野菜～

株式会社アクア 菰野辻農場

《代表者》 辻 恵美子

《設立》 2012年1月

《事業内容》 水耕栽培（低カリウム野菜、小松菜・水菜など）

《所在地》 三重県三重郡菰野町大字田光 23 番地1

《従業員数》 8名（2021年11月1日現在）



ここが
ポイント！

導入 理念に基づく実践

作業内容 水耕栽培

成果 高付加価値商品の開発

概要

耕作面積（規模）

約50mビニールハウス 3棟、約40mビニールハウス 4棟、作業場 2棟
水耕栽培ベッド（46.8m×18本、36m×12本、34.2m×6本、25.2m×6本）

売上額

約13,000,000円

主な販路

農協直売所、道の駅での販売
地元スーパーへの出荷（買い切り）
菰野町学校給食への出荷
インターネット販売

従業員数

担当社員8名と、就労継続支援B型及び日中一時支援の利用者13名が従事

視察・報道機関の受け入れ

可（<https://aqua-komono.com/>）

高収益品目の取り組みにつながったポイント（ストーリー）

生きづらさを感じている人々との出会いからのスタート

株式会社アクアは前身となる辻石油店の農業部門として平成21年にビニールハウス4連棟の水耕栽培設備で小松菜の生産を開始した。農場の周りや周辺地域に一般就労が困難な障害者や社会での生きづらさを感じている方がいることを知り、その方たちが働く場を提供したいとの想いで平成24年に株式会社アクアとして法人化、同年5月に菰野辻農場として就労継続支援B型の認可を受けた。

社員全員福祉のシロウトだった

開所当初は、それまで農業事業部の社員だけで始めたこともあり、全員が福祉の知識も経験もなくなかなか利用者が集まらなかった。ただただ、利用者の方達と向き合い、個性を見つけ、聞いて、話して、共に作業してきた結果、現在は13名が登録する事業所となった。最初は不安も大きかったが、実際に来た利用者のできること・できないことを見て、どの作業とマッチングするのがよいかを考えることに、いつしかやりがいを見出すようになった。

低カリウム野菜生産の開始

代表の関係者で糖尿病患者の家族から病気になると生野菜を食べることができない、という相談を受けたことから、水耕栽培の開始から4年目の平成27年より「低カリウム野菜」の生産販売を始めることとした。

取り組みの成果

多様な作業提供と特性・能力に応じた工賃設定

地下水を活用したハウスでの栽培のため天候や季節に関係なく生産が可能であり、季節によって収穫量は違うが一年を通してほぼ毎日さまざまな作業が発生する。同社ではほぼ全工程で障害者が活躍しているが、作業の難易度を数値化し、できる作業の点数に対応した時給を設定するなど一人一人の特性と能力に応じた作業を提供している。

高付加価値商品「低カリウム野菜」の栽培で工賃UP

低カリウム野菜は、スペシャルニーズを持つ患者やその家族のニーズに応えると同時に、通常野菜よりも高付加価値なため、利用者の工賃原資をしっかりと確保することにもつながっている。

工賃

2020年度の平均工賃：22,408円
（三重県の平均工賃：16,608円）

■ 年間の作業イメージ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
障害者作業	栽培：種まき、定植、清掃、収穫											
	出荷：選別、根切り、袋詰め、シーラー											
	PC事務：収穫・収量の記録、伝票作成											
水耕過程	小松菜・水菜・リーフレタス・ベビーリーフのハウス栽培											

収支モデル (例)

収支

就労支援事業収入	13,000,000	内部取引含む売上
就労支援事業支出		
材料費支出	2,000,000	資材等
労務費支出	4,000,000	利用者工賃
経費支出		
水光熱費	2,000,000	
消耗品費	1,200,000	
賃借料	120,000	
他経費	1,080,000	
就労支援事業製造原価支出計	10,400,000	
当期活動増減差額	2,600,000	

障害者雇用の現状と 活躍のポイント

◆ 属性情報

- ・ 就業障害者数：13名
- ・ 障害種別：知的・精神
- ・ 雇用形態：就労継続支援 B 型（雇用契約なし）

◆ 就業障害者が実施している作業

- ・ 種まき、定植
- ・ パネル洗浄、ベッド洗浄
- ・ 収穫、選別
- ・ 根切り、袋詰め、シーラー

◆ 良い点 / 難しい点

- ・ 水耕栽培は多様な作業がほぼ毎日発生するため、就業障害者の特性に合わせた作業をマッチングしやすい特徴がある。
- ・ 農業関係の業務は危険が大きいため従事していない。
- ・ 新規利用者については、事前に相談支援などから情報をもらった上で実際にいろいろな作業を体験してもらい、特性を見極めている。

◆ 必要なサポート

- ・ 基本的にはすべての作業に従事してもらっていますが、どこをサポートすれば従事可能になるかを考えて割り振っている。
- ・ できる・できないだけでなく、利用者同士の組合せも考えてマッチングしている。
- ・ 苦手な仕事の次に好きな仕事を設定するなどしてモチベーションを維持している。



▲ 袋詰め



▲ 定植

生産品の 特徴

鈴鹿山麓のミネラル豊富な天然水が育てるおいしい野菜

農場は三重県北勢部にあり、鈴鹿山麓の天然水を 100 % 使用した水耕栽培で小松菜・水菜・リーフレタス・ベビーリーフの生産をしている。また、腎疾患や透析、糖尿病などでカリウムの制限をされている方でも安心して生野菜で食べることができる「低カリウム野菜」は他社の同製品に比較して安価で提供できており、直売所での販売に加え、北勢部の JA 直売所・スーパー・学校給食や飲食店に出荷している。

徹底した安全性と生産管理

平成 30 年 10 月に生産管理工程における食の安全や環境保全、労働安全に取り組む農場に与えられる「JGAP」を全品目で取得し、すべての人に安心して食べていただける野菜を生産している。また、減農薬、栽培記録表への記帳と廃液管理等の審査基準を満たすことで認定される「みえの安心食材」表示制度の認定も受けているを十二分に引き出すことができている。



▲ レタス

JGAP を取り入れた誰もが働きやすい環境整備

農場内は JGAP に基づいて 5S（整理・整頓・清潔・清掃・習慣）を徹底して実践しており、作業効率の向上やリスク軽減につながっている。また、5S を実践することで利用者にとっても働きやすい環境整備につながっている。水耕栽培は危険な作業がないため、障害者の方には大変向いている仕事だと感じている。見学等で農場に来られた方々には皆が明るく楽しそうにテキパキと働いていると感心されることも多い。

今後の 展開

低カリウム野菜の安定生産

夏季に猛暑のため、植物病原菌の繁殖で生産できなくなってしまうなど、年間を通して安定した生産量を確保することが課題。JA や農業普及センターとの連携を図ったり、他社の水耕栽培施設や野菜工場等での衛生管理方法も参考に対策を練っていく必要性を感じている。

低リン野菜の生産数・販売数の向上

現在、低カリウム野菜に加え「低リン野菜」の生産も推進している。低カリウム・低リン野菜を必要としている方たちに知ってもらい、配送コストを抑えながら販路拡大と販売数の向上を図っていきたいと考えている。



▲ 水耕栽培ベッド

Editor's Voice

福祉事業の始まりは 1 人の障害者との出会いから。一人一人に向き合い、できることをマッチングしてきた結果、今ではほぼすべての作業を障害者が実施でき、最小限の支援で生き生きと働く障害者に、視察者からは驚かれることも多いとのこと。

障害者就労との相性が良く、JGAP の取得など十分な品質も確保されており、今後の増収益が期待される事例です。

しいたけ

～多様な働き手と大規模栽培の好循環～

有限会社 フジタ

《代表者》 藤田 鉄夫

《設立》 1985年8月1日

《事業内容》 しいたけ栽培

《所在地》 三重県いなべ市藤原町篠立舞谷 3390-115

《従業員数》 19名



ここが ポイント!

導入 生産効率向上の取り組み

作業内容 しいたけ栽培

成果 高工賃の達成

概要

耕作面積（規模）

0.26ha（5か所の合計）

売上額

120,800,000円

（151tの生産量、kg単価800円で計算）

主な販路

地元スーパーにて販売

地場産売り場で販売

卸して販売

従業員数

19名（うち障害者雇用1名）

運営している就労継続支援B型事業所の利用者として9名在籍

視察・報道機関の受け入れ

可（<https://mushroomforest.org/>）

高収益品目の取り組みにつながったポイント（ストーリー）

50年以上の歴史

いなべ市は藤原町など4つの町が合併してできた市である。有限会社フジタは会社設立以前から藤原町でしいたけ栽培に取り組んできた。藤原町ではしいたけ栽培以外にもマスの養殖が盛んで、自然を活用した暮らしをしている。

障害者の受け入れ

起業当初から働き手として精神障害者や地域の引きこもりの若者を積極的に受け入れていたこともあり、2011年に就労継続支援B型事業所として篠立きのご園を設立することとなった。

取り組みの成果

菌床栽培による生産性の向上

法人化した際には原木での栽培でしたが、菌床に変えたことで栽培計画を立てやすくなった。生産効率も向上し現在の規模にまで成長することができている。

農福連携の必要性

菌床によるしいたけ栽培では定型化しやすい作業が多く、菌床の管理から出荷まで幅広い作業がある。たくさんのしいたけを栽培していることから常に人手が必要となるが、反面それは安定的に作業を捻出することができるということでもある。定型化がしやすくてたくさんの作業があるということで障害特性に応じた作業に携わってもらえることができている。

障害者がいることが自然な職場に

就労継続支援B型事業所を運営する以前から多様な人材を受け入れて事業を行ってきた。今ではスタッフと利用者が共に作業に取り組んでいる。なかなか作業効率の上がらない利用者があることは事実である。しかしそういった方であったとしても何らかの形で作業に貢献してくれており、共に働く仲間として認め合う文化が醸成されている。

就労継続支援B型事業所 篠立きのご園の工賃

2020年度の平均工賃：34,937円（最高額は約130,000円）
（三重県の平均工賃：16,608円）

■ 年間の作業イメージ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
障害者作業 しいたけ栽培	水やり、菌床の移動、収穫											
	計量、パッキング、出荷作業											

収支モデル (例)

収支

	2018年度	2019年度	2020年度
売上高	50,000,000	80,000,000	11,000,000
利用者数	18	15	15
平均工賃	24,131	32,000	34,000
県内の平均工賃	15,561	16,429	16,608

※ 売上は生産量×kg 700円で算出

※ 設備投資ならびに利用者の生産性の向上によって売上が向上している

障害者雇用の現状と 活躍のポイント

◆ 属性情報

- ・ 就業障害者数：1名
- ・ 障害種別：精神・発達
- ・ 雇用形態：パートタイム
- ・ その他：就労継続支援 B 型事業所として9名の障害者（精神6、知的3）が在籍

◆ 就業障害者が実施している作業

- ・ 菌床の管理（水やりや菌床の移動など）
- ・ 採集と選別（難易度が高く一部の利用者しかできない作業となっている）
- ・ パッキング
- ・ シール貼り
- ・ 店頭販売
- ・ 納品

◆ 良い点 / 難しい点

- ・ 人手を要する作業が多く、毎日作業できる利用者は戦力として予定に組み込みやすい
- ・ なかなか作業を継続できない利用者もいるが、やってもらえることを発見しながら作業に携わってもらっている

◆ 必要なサポート

- ・ 障害特性に応じた工程の細分化や可視化
- ・ 障害福祉サービス事業所として行っている送迎
- ・ 治具の開発



▲ 作業の様子

生産品の 特徴

菌床の回転数をあげた高品質のしいたけ

農有限会社フジタでは、菌床を高頻度で回転させ、常に質の高いしいたけが採集できるようにしている。結果として原価がかかることになっていますが、収穫高と品質を両立できるよう工夫している。



▲ しいたけ

社員一丸となって取り組む丁寧な栽培管理

障害者も携わっている菌床の管理では水やりの時期や入れ替え作業など、たくさんの人手が必要となる。障害者の能力を開発することでできることを増やし、丁寧な栽培管理を行うことができている。

ハウス内作業の利点を活かして

菌床でのしいたけ栽培は施設内作業であるため、天候に左右されずに取り組むことができている。また、一人で黙々と取り組むことができる作業が多いことから、障害者のみならず、コミュニケーションの苦手な方にも向いている仕事となっている。

今後の 展開

さらなる規模の拡大を目指して

年間を通じて作業を捻出するには、栽培面積をさらに増やしていかなければならない。雇用を創出したり、障害者に支払う工賃を向上させたりしていくためにも規模の拡大を進めていきたいと考えている。

加工品やしいたけ以外の品目への展開

これまでしいたけ栽培を中心に行ってきましたが、加工品やしいたけ栽培のノウハウを活かして行える他の品目の栽培も行っていきたい。規模の拡大と合わせて経営基盤を安定させることでさらなる雇用も生み出せると考えている。



▲ 菌床栽培施設

地域のニーズの汲み取り

地域の障害者を受け入れてきましたが、支援団体等との関係は十分ではなかったかもしれません。より多くの方の働く場となれるよう、連携の強化を図っていきたい。

Editor's Voice

大規模栽培による豊富な作業量が障害者の働きやすさになるとともに、障害者が携わることで規模を維持拡大させていくことができる、という好循環を生み出している事例です。

「できることをやってもらえればいい」という代表の言葉が印象的でした。

養蜂（ハチミツ）

～農作業ができないとき（雨・季節外れ等）に作業でき、商品展開しやすい高付加価値商材～

エーゼロ株式会社

《代表者》 牧 大介

《設立》 2015年10月1日

《事業内容》 養蜂

《所在地》 西栗倉本社：岡山県英田郡西栗倉村大字影石 895（旧影石小学校）

《従業員数》 43名（2020年5月1日現在）



ここが ポイント！

導入 変動的な勤務時間に対して、施設外就労で臨機応変に対応できる点

作業内容 瓶詰、内検など

成果 規模拡大につながる

概要

耕作面積（規模）

0.3ha

30巣箱で養蜂を実施（1巣箱あたり0.01haで算出）

売上額

3,600,000円 ⇒ 4,000,000円（2021年度収穫見込みをもとに算出）
（1群＝10kg×3回＝30kg収穫、30群実施、kg4,000円で販売として算出）

主な販路

道の駅にて販売

自社のカフェにて加工販売

ふるさと納税の返礼品

従業員数

担当社員3名と、施設外就労の受け入れとして障害者3名と付き添い支援者1名が従事

視察・報道機関の受け入れ

可（<https://www.a-zero.co.jp/>）

高収益品目の取り組みにつながったポイント（ストーリー）

西粟倉村における100年の森林構想

エーゼロ株式会社がある西粟倉村は面積の約95%が山林であり、そのうちの85%が人工林となっている。村の資源である森を価値あるものと位置づけ維持するとともに、地域経済につながるような取り組みを村全体で行っている。

豊かな自然の恵み

山林から得られるのは木材だけではありません。季節ごとに違う花から採蜜を行うミツバチからハチミツを採取することで、西粟倉村の自然の味を楽しんでいただけるのではないかと考えたことから養蜂を行うこととなった。

取り組みの成果

農福連携の必要性

養蜂工程には内検・給餌といった比較的短い時間で繰り返し行う作業と、商品化をする際の瓶詰めのような長時間の単純作業に分かれている。そのいずれにおいても障害者の適性が高く、障害者雇用を行うことでさらなる収益増が見込まれる。

細かな作業や異物検出能力の活用

給餌作業と、女王バチの健康状態を確認する内検については、小さな変化に気づく能力が求められる作業となっている。障害者の中には高い異物検出能力を持つ方もおり活躍ができる。

決まった繰り返し作業への適性

就瓶詰めやラベル貼りは単調な作業ですが、障害特性に合えば障害のない人と同程度以上の正確な作業ができる。

障害者を受け入れたことで事業実施が可能に

常勤1名+パート1名で実施できる業務量ですが、これを担う人材が地域におらず事業の開始や拡大が難しかった。そこで施設外就労を受け入れ、業務を障害者に担ってもらうことで、事業を開始することができることとなった。

委託業務の価格

瓶への蜂蜜の充填、ラベル貼り等の作業を1瓶30円として、18,000瓶程度の発注を見込んでいる。

■ 年間の作業イメージ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
障害者作業	瓶詰め	給餌・内検		採蜜	瓶詰め、ラベル貼り							
	ラベル貼り	その他農作業（野菜等）										
養蜂の工程	冬眠	産卵										冬眠
	商品化	健勢	内検・給餌・採蜜						商品化			

収支モデル (例)

収支

		2020 年度	
売上高		3,600,000	
原価 (原材料・資材費等)		18,00,000	原価率 50%
粗利益		18,00,000	
	人件費	非公開	正規1+ パート1
	外注人件費	540,000	施設外就労

※ 売上は1群= 10kg × 3回= 30kg 収穫、30 群実施、kg4,000 円で販売として算出

※ 商品開発と販路開拓により、さらに売上高・粗利益は上昇する

障害者雇用の現状と 活躍のポイント

◆ 属性情報

- ・ 就業障害者数：3 名
- ・ 障害種別：知的・精神
- ・ 雇用形態：施設外就労（就労継続支援 B 型）より受入れ
- ・ 勤務形態 / 賞与等の有無：請負契約

◆ 就業障害者が実施している作業

- ・ 健勢時の給餌：砂糖水を巣箱に入れる作業
- ・ 健勢時の内検：女王バチの健康状態と産卵、天敵（ダニ）の発生の確認、分蜂の抑制作業
- ・ 採蜜：蜜巣板（みつすばん）から蜜を搾る作業
- ・ 瓶詰め・ラベル貼り：採れたハチミツの製品化

◆ 良い点 / 難しい点

- ・ 瓶詰めなどは地道な作業のため助かっている。
- ・ 農業生産そのものは変化が多く障害のある方には向かないが、収穫～加工～パッキングなどの作業は向いている。
- ・ トラクターや農業機械の操作はむずかしい。

◆ 必要なサポート

- ・ 障害特性に応じた工程の細分化や業務導入時の説明
- ・ 視覚的にわかりやすい作業指示
- ・ 支援員に養蜂技術があり、状況判断ができれば、蜂のいる環境でも障害のある方が作業できる。



▲ 採蜜の様子

生産品の 特徴

地域の自然を活かした味

単花蜜・百花蜜：天然ハチミツの違いは、ミツバチが採集する花の種類で違う。1種類の花の蜜からなるハチミツを単花蜜、数種類の花の蜜からなるハチミツを百花蜜という。ハチミツははエリア・季節ごとにちがった味を楽しむことができる。



▲ みつばち

長期保存・商品開発の多様性

ハチミツは搾ったらそのまま製品となる。糖度が高いことや一種の発酵食品のため保存がしやすく、一斗缶の状態でも1年ほど保存がきくため長期で在庫を持つことが可能である。また加工品としての応用が容易なことも高収益につながる特徴のひとつとなっている。

農作業が難しいタイミングでも実施可能

ハチの活動が少なくなる冬季には瓶詰め等の在庫から商品化作業を行うことで、農閑期を含めて年間を通して作業が可能となっている。

今後の 展開

ハチミツを使った加工品の開発

ハチミツをそのまま売ることと並行し、ハチミツ酒など加工品もつくっていくことで、さらに障害のある方ができる仕事を増やしていく予定にしている。

特産品としての販路拡大

ハチミツは蜂が採集した蜜によって味が変わることから、地域や季節によってさまざまな味で提供でき、ふるさと納税を活用し特産品化していくことを検討している。

その他事業の拡大

蜜搾り体験などの体験プログラムは、近年多様性の理解を目的とした企業研修等での需要が高く、生産者にとっても商品販売以外での収入を少ないコストで得る機会となっている。取り組んでいる作業について障害者に講師役をさせることで自信を持って作業に従事してもらうことができると考えられることから、積極的に開発を進めていきたいと考えている。



▲ はちみつ

Editor's Voice

障害者の特性を活用し、事業拡大を進めている事例です。

これまであまり活用されてこなかった資源の本来の価値を引き出すという視点は、自然にだけではなく人にも向けられています。この実践が雇用の創出や産業の振興として、地域課題の解決に寄与していることは特筆すべきことであると思われます。

いちご

～事業承継による技術の継承と多様な人材の参画を促す雇用の創出～

株式会社 ONE GO

《代表者》 嘉村 裕太

《設立》 2020年4月（築島農園より事業承継）

《事業内容》 農業

《所在地》 福岡県久留米市通町5-18 イデックビル 3F

《従業員数》 11名（2021年10月1日現在）



ここが ポイント！

導入 事業承継
作業内容 いちごの栽培
成果 販路拡大による収益増

概要

耕作面積（規模）

約 0.5ha

売上額

73,000,000 円

主な販路

ふるさと納税での返礼品として
道の駅での販売

※ 99% はふるさと納税での返礼品として出荷

従業員数

正社員8名

障害者雇用としてパート従業員 3 名（社会保険、有給）
施設外就労で4～10名を受け入れ

視察・報道機関の受け入れ

可（<https://onego.co.jp/>）

高収益品目の取り組みにつながったポイント（ストーリー）

創業者の思いを受け継いで

久留米市で30年に渡りあまおうを育て続けてきた築島氏の想いと技術を、より多くの方に届けたいと事業承継を行う。優れた実践である技術だけではなく、創業者の思いを受け継ぐため、役員（CTO：最高技術責任者）として事業にも関与してもらっている。

人材不足という課題に直面している農業

築島農園だけではなく継ぎ手のいない農家はとても多い。一方で農業に関心を持ち、取り組みたいと考えている人はたくさんいる。そういった方を雇入、農業に携わってもらうためにも、事業規模の拡大を目指している。

取り組みの成果

障害者との関わり

代表の嘉村氏が別法人（株式会社 SANCYO）で行っていた障害福祉事業において農業がしたい障害者が多くいたことがきっかけだった。障害があるからということだけで農業に携わることができないのは、障害福祉業界にとっても農業にとってもマイナスであると考え、障害者だけではなく多様な方が農業に携われるよう築島農園の事業を承継し、株式会社 ONE GO を立ち上げた。

障害者との協働モデルの素地と展開

株式会社 SANCYO において、5年に渡り障害者が楽しく働ける場として農作業を中心とした福祉施設を運営してきた。農作業は取り組む上で難しいことも多く、最初からうまくできるわけではなかった。それでも「やりたい」という気持ちを持った方には積極的に携わってもらうという姿勢で臨んできました。株式会社 ONE GO でも同様に、「やりたい」という思いを持った方を受け入れている。

ふるさと納税への出荷

あまおうにこだわり続けた創業者の想いを継ぎ、福岡を代表する品目としてふるさと納税への出荷を行っています。障害者も含め、農業に携わりたいという思いを持った人に携わってもらうことで生産規模を拡大することができている。

工賃 / 給与

障害者雇用として3名のパートを雇用、時給は900円（福岡県の最低賃金：870円）。

■ 年間の作業イメージ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
障害者作業		収穫・出荷			↑ 冷凍用の収穫	片付け・育苗			定植・マルチ被覆			↑ 収穫・出荷
のスタッフ業務	オンライン販売等											

収支モデル (例)

収支

		2020年度	
売上高		77,000,000	
原価		51,000,000	原価率 66%
粗利益		26,000,000	
経費		23,000,000	
	人件費	9,600,000	
	外注人件費	6,400,000	
	水道光熱費	300,000	
	消耗品費	700,000	
	他経費	6,000,000	
		3,000,000	

障害者雇用の現状と 活躍のポイント

◆ 属性情報

- ・就業障害者数：3名
- ・障害種別：精神2名・身体1名
- ・雇用形態：無期限のパートタイム
- ・勤務形態 / 賞与等の有無：非常勤 / 賞与あり / 社会保険あり / 昇給あり
- ・施設外就労の受け入れ：繁忙期には10名程度、それ以外の時期には4名程度

◆ 就業障害者が実施している作業

- ・収穫作業：あまおうの収穫
- ・出荷作業：出荷するためのパッキング等
- ・育苗作業：植え付けのために苗を育てる作業
- ・植え付け作業：畑への植え付け作業
- ・あまおう栽培に関する作業には全て携わってもらっている。

◆ 良い点 / 難しい点

- ・農業に携わりたい人を雇い入れているので、高いモチベーションで作業に臨んでいる。
- ・指導が必要な部分についても前向きに受け入れてくれる。

◆ 必要なサポート

- ・雇用する前は、天候によって急に休みになることがあるなど予定の変更が多いことや、繁忙期に勤務時間が伸びやすいこと、環境の変化が激しいことなどで体調を崩すのではないかと懸念していたが、それらに対するサポートは必要なかった。
- ・声掛けをしながら様子を確認することで、しっかりと働いてもらっている。



▲ 障害者による作業の様子

生産品の 特徴

培われた技術による高い品質

エンジニアであった創業者の築島氏が長い年月をかけて構築した栽培システムによって、温度・湿度などを管理することで農薬の使用を最小限に抑えた質の高いあまおうを生産することができている。GAPの認定を受けるなど、その技術力はとても評価されている。また老舗フルーツパーラーでも取り扱われるなど味の評価もされている。



▲ いちご

ふるさと納税の返礼品として

主な出荷先であるふるさと納税においても、あまおうの評価は高い。昨年度には、ふるさと納税サイトのいちごランキングで一位を獲得するなど消費者にも支持されている。

農作業が難しいタイミングでも実施可能

あまおうはそのまま出荷するだけでなく、特殊な冷凍技術を用いて急速に冷凍させた冷凍あまおうとしても販売している。季節を問わず、あまおうを楽しむことができる。

今後の 展開

作業環境の向上を目指して

生産規模の拡大と、多様な方の参画を進めていくために作業環境の向上に取り組んでいる。来年度には、事務所と休憩所を新設し耕作面積の拡大に備えている。

冷凍作業の内製化と加工品への展開

これまで冷凍あまおうとして販売していたものの冷凍作業は外注していたが、プロトン冷凍を可能にする凍結機を導入し自社内で作業することを可能にしている。内製化することでコストを抑えるとともに、新たな仕事を生み出すことができる。また、あまおうを用いた加工品の開発にも取り組んでいる。

長期的な展望として

ふるさと納税の返礼品としての出荷以外の販路を開拓していくことと、さらなる雇用を生み出すために観光農園事業を実施していくことを計画している。接客業務を創出することでさらに多様な働き手に携わってもらうことができるのではないかと考えている。



▲ ハウス内の様子

Editor's Voice

長年にわたって取り組まれてきた事業が継ぎ手不足によって消えてしまうという今日的な課題に、事業承継という方法でアプローチした事例です。創業者の想いを残し、消費者に価値有る商品を届けるために、多様な担い手でチームを構成していく。三方良しの取り組みによって関わる全ての人に喜びが生まれています。

おわりに

高収益品目と農福連携という2つの切り口で取材を進めました。取材を進める中で、高収益品目は農業や酪農が価値ある実践であることを知ってもらいたいという思いからスタートしていることに気付かされました。この思いは同時に農業や酪農に携わりたいという人を受け入れる素地にもなっています。

福祉との連携を通じて障害のある方と一緒に農業や酪農に携わっている実践者からは、一緒に働くことのメリットや喜びをたくさん聞くことができました。共通していたことは、障害のあるなしは重要ではなく、「農業や酪農に携わりたい」という思いを持った方に、「どのように携わってもらえるのか」を試行錯誤していくという姿勢でした。

試行錯誤を続けることで携わる方が増え、事業の拡大や新しい挑戦につながっています。農福連携を通して、農業や酪農に携わりたいと考えている方と出会っていただければと思います。



令和 3 年度 農林水産省農福連携対策のうち普及啓発等推進対策事業
農福連携における作業分担等の How to
動画制作及び高収益品目の農福連携の実態に関する調査・分析

◆ 発行 令和 4 年 3 月

◆ 実施

株式会社インサイト

〒 550-0003 大阪市西区京町堀 1-8-31 安田ビル 204

令和 3 年度 農林水産省農福連携対策のうち普及啓発等推進対策事業
農福連携における作業分担等の How to
動画制作及び高収益品目の農福連携の実態に関する調査・分析